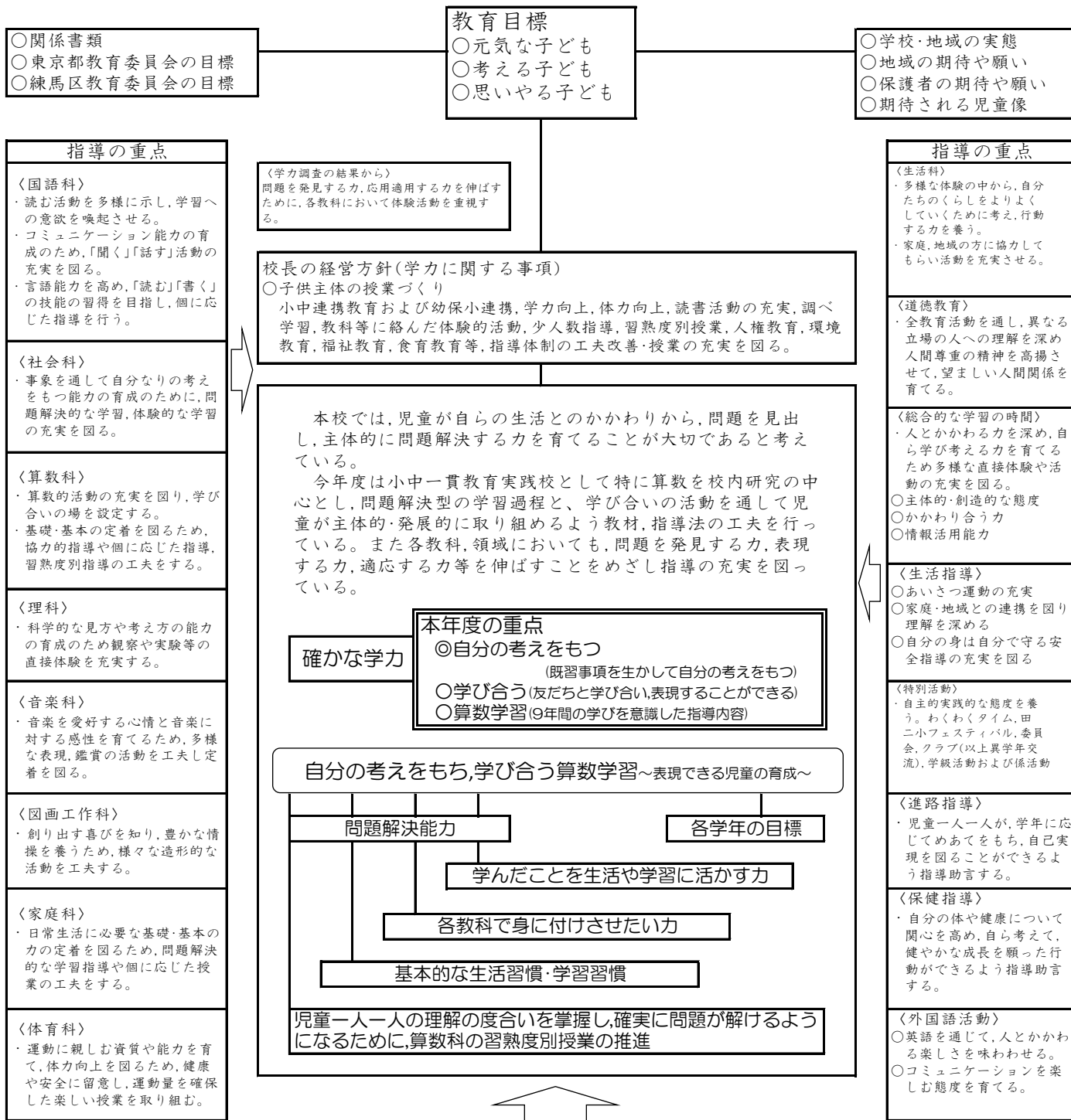




田柄第二小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
・体験的、問題解決的な学習を重視する。 ・児童の実態に応じた学習指導を行う。(習熟度別授業の工夫) ・基礎的基本的な知識や技能を体系的に身に付けさせる。 ・読書活動の充実のため、毎週水曜日始業前に15分間の読書タイムを設ける。 ・図書支援員の協力を得ての授業や、ボランティアを用いた読み聞かせを行う。	・少人数指導を工夫する。 ・夏季休業中に学力補充教室を行う。 ・年間2回の読書旬間を実施する。 ・土曜授業を計画的に行い時数の確保をする。	・「教育課題研究指定校」として、算数を中心に教員の授業力を高め、学力の向上を図る。 ・田柄中、田柄小との小中一貫教育実践校として、研究の充実を図る。 ・学年教科の年間指導計画を見直し、改良を加え実施する。 ・長期休業を中心に、職員研修を充実させる。(パソコン研修、特別支援教育研修、OJT等の推進)	・1時間の授業前と後を振り返り、自己評価させる。 ・児童の意識調査を数回行い、学ぶ意欲の変容を確認して、学年計画に反映させる。 ・自己点検シートや授業観察シートを用いてお互いの授業の改善を図る。	・学校公開日、授業参観日を設定し、アンケートを行い、外部評価参考とする。 ・保護者に向けて年度末に総合的なアンケートを行い、教育活動の改善に生かす。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・保護者の協力の下、学校安全安心ボランティアを実施する。 ・地域子ども会を組織したり、地域農家と交流をしたりする。 ・学校教育支援事業を進め、地域人材を活用する。(地域未来塾)	・連携校3校は、施設が離れているので、交流を通して教員同士お互いを知る。 ・小学校、中学校の指導のよさと課題を認め、互いのよさをそれぞれに生かす。 ・小中の課題改善カリキュラムの立案をし、9年間という学びの連続性を意識した授業を実践する。 ・指導法にも小中学校で一貫性をもたせるようにする。